

A. 主な動き

1. 内政

ティモシェンコ前首相に関する動き

・10日、検事総局及び国家刑務所管理庁は、関係機関とティモシェンコ前首相の診察問題に関し協議を実施、海外医師団との共同診察を13日に開始する予定である旨発表。

大統領の動き

・7日、最高会議第6招集第10会期が開会。ヤヌコーヴィチ大統領は、演説を実施。2012年最重要課題として、エネルギー安全保障の強化、国内生産及び輸出活動の強化、交通インフラの整備、新農業政策の実現、住宅・公共事業改革を列挙、2012年は経済の分野において多くの困難が想定されるとし、新たな世界規模のリスクを最小限に抑える必要がある旨発言。一方、BYT議員は、ヤヌコーヴィチ大統領の演説を妨害。

刑事訴訟法改正をめぐる動き

・8日、最高会議は、ティモシェンコ前首相を解放することを目的として「パチキフシナ」党から提出されていた1月31日付刑事訴訟改正法案を否決。

・9日、最高会議は、ヤヌコーヴィチ大統領により提出されていた1月13日付新刑事訴訟法案を第一読会において採択。

議員買収に関する動き

・8日、ザブザリユク最高会議議員は、ルィバコフ「未来のための改革」グループ議員からBYT離脱買収工作を受けた旨公表。同日、BYTはザブザリユク議員のBYT復帰を決定。

・8日、リトヴィン最高会議議長は、ザブザリユク議員の「未来のための改革」グループ脱退及び同議員のBYTへの加入を発表。同日、同議長は、検事総局及び最高会議執務問題委員会に本件に関する調査を指示。

・9日、BYTは、ソボレフ議員を最高会議BYT会派第一副代表に、ザブザリユク議員を同副代表に指名。

・10日、ザブザリユク議員は、本件に関し適切な処置をとるよう検事総局に求める旨発言。

その他

・10日、検事総局は、ルツェンコ前内相に対する刑事訴追審議における調書の検証が終了し、14日から裁判審議に移る旨発表。

2. 経済

金融・財政

・8日、欧州委員会(EC)は、基金の目的外使用のため、ウクライナへの1億6,000万ユーロの財政援助プログラムを延期する旨発表。ECは、2011年9月にエネルギー貯蓄プログラムのため3,100万ユーロの拡大融資を行ったが、実際

にはクリミアとオデッサにおける太陽エネルギー発電所の伝送システムの建設に使われた旨報告。

・10日、アリエール IMF 駐ウクライナ代表は、クリューエフ第一副首相に宛てた書簡において、ウクライナのエネルギー政策は受け入れ難いものであり、家庭(30%)及び暖房会社(58%)のガス料金の値上げを求めるとし、国家の債務を減らすため、現在米ドルにフィックスされたフリヴニャの為替レートについてフレキシブルなものとするべき旨勧告。

ガス問題

・3日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ミュンヘン安全保障会議の機会に独経済界代表者との会合に出席し、ロシアとのガス価格交渉は現在も継続して行われている旨発言、また、会合後の記者会見において、ドイツの銀行がガス輸送コンソーシアム創設計画参加への意向を示している旨発言し、三者ガス輸送コンソーシアム創設は現実的である旨強調。

・8日、ボイコ・エネルギー石炭産業相は、寒波の影響でロシアからの天然ガスの輸送量が規定量を下回っている旨発言。9日、同相は、ロシアから欧州への天然ガス供給量が減少している問題で、ウクライナのガス地下貯蔵施設から補填することでロシアを支援する用意がある旨発言。

・10日、アザーロフ首相は、訪問先のラトビアで、ロシアのガス価格高騰が続く限り、ウクライナはロシアからの購入量を制限する一方で、エネルギー代替供給源の模索を継続するとし、すでに第三国と基本的合意に至った旨発言。

その他

・8日、アエロスヴィート・ウクライナ航空は、ジャパン・エア・トラベル・マーケティング(JATM)との2012年の日本・ウクライナ間長距離飛行プログラムに同意する旨発表。本年7月よりキエフ東京間直行便(チャーター)が週1便、計6往復の運行を予定。

3. 外政

ヤヌコーヴィチ大統領のミュンヘン安全保障会議出席

・3日、ヤヌコーヴィチ大統領は、第48回ミュンヘン安全保障会議に参加のため、ドイツを訪問し、独経済界代表者との会合に参加、ウクライナでは政府も野党も欧州統合で一致している旨発言、欧州委員会のこれまでの協力に対し感謝の意を表明。

・3日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ミュンヘン安全保障会議において、エネルギー計画は環境に配慮しつつ経済的要因により決定されるもので、個々の国家の政治的関心によって左右されてはならない旨発言。また、同大統領は、ウクライ

ナは国内ガス輸送システムの近代化事業への欧州の参加を期待している意を表明し、エネルギー安全保障はあらゆる国家の最重要要素である旨強調。また、同大統領は、キッシンジャー元米国務長官と会談し、ウクライナの経済情勢につき説明。

・3日、ヤヌコーヴィチ大統領は、訪問先のミュンヘンにおいて、クリントン米国務長官と会談し、エネルギー安全保障、ウクライナの欧州統合問題及び戦略的パートナーシップに関するウクライナ・米国委員会の審議の現状につき協議、ウクライナの欧州統合問題とティモシェンコ前首相の問題は分けて議論する必要がある旨発言、同前首相の医療支援への海外医師団の参加表明に対し謝意を表明。

グリシチェンコ外相のミュンヘン安全保障会議出席

・3日、グリシチェンコ外相は、ミュンヘン安全保障会議に参加し、メメディアロフ・アゼルバイジャン外相と会談。両者は、エネルギー分野における協力につき協議し、GUAMの活動及び将来の展望に関し意見交換。

・4日、グリシチェンコ外相は、訪問先のミュンヘンにおいて、ヴェスターヴェレ独副首相兼外相と会談し、連合協定交渉の現状及びウクライナ内政に関し協議。同日、グリシチェンコ外相は、イエレミッチ・セルビア外相とも会談し、両国協力関係、政治対話の強化につき協議し、両国経済及び貿易の動向を確認。

グリシチェンコ外相のウズベキスタン訪問

・5、6両日、グリシチェンコ外相は、ウズベキスタンを訪問し、カリモフ大統領、ソビロフ上院議長、カミロフ外相及び同国経済界代表等とそれぞれ会談し、経済分野における両国の協力関係の現状及び今後の発展の見通し、共同政府間委員会の再結成等に関し協議の上、2012年両国外務省間協力計画等に署名。

シコルスキ・ポーランド外相のウクライナ訪問

・8日、シコルスキ・ポーランド外相は、ウクライナを訪問し、ヤヌコーヴィチ大統領と会談。同大統領は、ポーランドが昨年後半EU議長国としてウクライナの欧州統合に向けた動きを支持したことに感謝の意を表明。また、両者は、ユーロ2012共同開催への準備に関し協議。

・同日、シコルスキ外相は、グリシチェンコ外相と会談し、両国の戦略的パートナーシップの発展、ユーロ2012開催期間の領事業務協力及びサポーターの移動問題につき協議。また、シコルスキ外相は、ウクライナの欧州統合に向けた動きに関し、ポーランドは連合協定署名への準備過程及びE

Uとの査証撤廃問題に関する行動計画の履行を実質的に支持する用意がある旨発言。シコルスキ外相は、また、ウクライナの野党代表者及びティモシェンコ前首相の娘エフゲニヤ・ティモシェンコ氏とそれぞれ面会。

アザーロフ首相のラトビア訪問

・9日、アザーロフ首相は、ラトビアを訪問し、ベルズインシュ大統領と会談し、二国間協力関係強化につき協議。

・10日、アザーロフ首相は、ドンブロウスキス首相と会談し、二国間関係、エネルギー、ウクライナの欧州統合問題等につき協議。ウクライナはラトビアに電力輸出の用意がある旨発言。会談後、両者は、2012年 2013年ウクライナ・ラトビア経済協力計画に署名。同日、アザーロフ首相は、アーボルティニャ国会議長と会談し、中欧イニシアチブ(CEI)の議題につき協議。

その他

・6日、アザーロフ首相は、ウクライナを訪問中のゴードン米国務次官補(欧州・ユーラシア担当)と会談し、ウクライナは米国との戦略的パートナーシップを発展させる旨発言。両者はウクライナのエネルギー政策につき協議。ゴードン国務次官補は、欧州への信頼できるエネルギーの輸送国であるためのウクライナの取り組みを米国は支持する旨発言。同日、ゴードン国務次官補は、リョーヴォチキン大統領府長官と会談し、ウクライナの改革進捗状況、特に民主化、人権保護等に関し協議、核兵器不拡散及びエネルギー安全保障問題等に関する両国の連携につき議論。

4 . 防衛

国防相の交代

・8日、ヤヌコーヴィチ大統領は、エジェリ国防相を解任、サラマティン新国防相を任命。

・9日、ヤヌコーヴィチ大統領は、サラマティン国防相任命に際しエジェリ前国防相に謝意を表明する一方、軍改革が十分進んでいない旨指摘。また、同大統領は、軍改革下の戦略的防衛計画の早期作成、戦闘訓練等の強化、軍人の給与及び生活水準の向上の必要性を強調。

その他

・6日、フェドチェンコ露黒海艦隊司令官は、2017年までにディーゼル潜水艦6隻が新たに露黒海艦隊に配備予定であり、2014年に1隻、2015年に2隻配備される旨発言。

(了)